「こんにちは 市長です」

１１月１日号

　昨日はとてつもなく暑かったのに今日は上着が必要なほど、やっと秋になった感がある。予定がびっしりの日があれば余裕たっぷりの日もある。今日は余裕の日、いつもの通り役所の中を歩き回る。若い職員と旬な話題で対話するのが楽しい。医療年金課で足が止まった。来庁者が大声で職員にかみついている。職員の説明に耳を貸さない。「たまにあるんです」若い女性職員はつぶやく。コロナで職を失う人もいる。不満が重なる。職員の一言で爆発する。そんな場面だったのかもしれない。

　机の上の１枚紙に「令和３年度の 75 歳到達者」後期高齢者保険証の発送数があった。昨年は５月から半年間で１０６１人だったのが今年は１３９５人に急増。いよいよ団塊の世代が後期高齢に参加し始めたのである。後期高齢者(約２万８千人)の１人当たりの医療費は平均 83 万円、全体では２２８億円かかっている。「そんなにも!!」恥ずかしながら私も知らなかった。後期高齢者が平均 83 万円を負担しているならばプラスマイナスゼロで問題はない。ところが本人の窓口負担は１割または３割、ほとんどが１割負担である。残りは誰が払うか、後期高齢者はそれを知るべきだと思う。保険料で１割、働いている現役世代の人たちが４割、そして国・県・市町村の公費で５割を負担する。９割は『みんなの支援』で成り立っている。

　『みんなの支援』に国保から、がある。国保は０歳児を含む皆さんの孫たちまでもが「均等割り」で課税されている。つまり０歳児にまで医療費を負担してもらっているということ、おかしな話でしょう？　国に改善を求めています。とにかく「高齢者は元気でいることが最大の社会貢献」そう思っています。

（10/12 記）